

「マスターピース」山本 〇 太郎

オーストラリア、二〇三二年八月の朝。陽が昇るとさっそくカモメたちが騒ぎだす。南半球の冬空は晴れ渡り、吹く風が心地良い。この日、ある青年が奇跡を起こし世界を変えて死ぬ。人類が五十年かけて歩んだ〇・五秒をたった一日で駆け抜けようとしている。

オリンピック開催地のブリスベンは熱狂していた。「二〇三二年オリンピック最大の注目競技が始まります。男子百メートル決勝！ 我らがイギリス代表マアックス・エイブラハムズ。

予選は全て一位通過。世界王者のマディも圧倒。一九九三年以来三十九年ぶりの金メダルは確実。すでに期待はどこまで世界記録を更新できるか。可能性は十分。まさに快挙。まさに

にまさに人類が未知の領域へ到達する瞬間を我々は目撃するでしょう」

本国の放送ではアナウンサーが興奮して喋っている。それも無理はない、若干十九歳の

青年マックスが世界記録九・五一秒を〇・五秒以上も縮め人類で初めて八秒台に到達しようとしている。世界中がマックスに熱狂した。母国イギリスでは既に受勲が検討されている。

今まで出場したユース大会では全てのレースで記録を塗り替え優勝。エリアチャンピオンを獲得しワールドレースでも結果を出しオリンピック出場権を獲得。非公式ながら世界記録も更新している。しかし、マックスの狙いは世界最速の称号とゴールドメダル。そのため

のために生まれたと父に言い聞かされて育った。「マックス。お前は世界一早く走る男として生まれてきたんだ」

物心のつかないマックスは期待されるのが嬉しくて素直に頷くと父親は頭を撫でてくれた。

「頃から」「なりに」

非公式ながら世界最速の称号はマックスのもの（だと、語り手は知っている）ので、視点人物を変えないならここはカットしても

彼への叙勲？

弱冠

まだ為されていない事柄には断定で使わないかも

「彼にかけられた期待は金メダルのみならず」、など

指示語内容が不明 or ちょっと遠いかも

初出が崩し発音だと人名混乱しそう。

「マックス、マアックス・エイブラハムズ」など正式名称を教えてもらえるとスムーズになりそう

「という堂々とした記録を残しながら」？

「いい子だマックス。お前は私の最高傑作だ」

それは言葉通りだった。マックスの父親エリック・エイブラハムズはケンブリッジで陸上競技に傾倒し、短距離と幅跳びの代表として二回のオリンピックで活躍。全部で十二の

マックス19歳が2032年とすると、エリックを架空人物として押し通すのはさすがに違和感かも。(地名等が現実準拠なこともあり)舞台を20532年にするとか？

期待？
のしかかるのは他者の感情であることが多いやも

競技に出場し銅メダル六枚、銀メダル五枚は堂々とした記録だが金メダルは取れぬまま引退。医者をしながら、地域競技連盟でスポーツ文化に貢献。世界競技連盟でも理事に選ば

れ影響力を発揮した。しかし、重要な地位に上がるほど金メダルへの執着が重くのしかかる。ついにエリックは非合法的な研究へ手を出した。自身の医院で自分の遺伝子を分解改変

し、受精した卵細胞の核と入れ替える。人工的に最高のアスリートを作り出す研究に没頭した。遺伝子を組み替えた赤ん坊は大量に作られた。赤ん坊はすぐに死んだが、その成果

は次の世代に反映された。データが溜まるほど赤ん坊たちの寿命は伸びた。トシミュレーションにより効率は何百倍にも増した。その成果を最大限に注ぎ込まれ育ったのがマックスだ。

「が最初の一人だった」など？

マックスの？ 実験の？

隠された生い立ちをネットメディアが嗅ぎつけた。セレブゴシップが専門の自称ジャー

ナリスト、ロビンス・マッコニーだった。決定的な証拠はなく耳を貸す者は少なかった。マ

ックスは世界から歓迎されていたし、エイブラハムズ家とエリックにはあらゆるメディアがコントロールできた。しかし、マックスの名声が高まると低俗な噂もまた人の口の上

り始めた。ネットでは便乗する者も現れ競って面白おかしく騒ぎ立てた。次々と立ち現れるオンラインメディアは潰し切れるものではない。世界的偉業が目前になった今、俗悪で

エリートを憎む輩たちもまた沸騰した。死体を継ぎ接ぎした怪物にも例えられたが、それは多くの中傷の中で最も思いやりのあるものの一つだった。マッコニーはオリンピックに

ゴシップに

マックスは

マックスの

マッコニーの持ち込んだゴシップに
など？

その場合、どんなゴシップが持ち込まれたのか明文化されると、より文章の理解がすすむかも

合わせて重要な情報を流すとまで予告している。

選手控え室。マックスはレースに向けて集中していた。別室からトレーナーであるドンの声が漏れ聞こえる。ドンはマックスの兄であり専属医でもあるリチャードにくっついてかかった。

「すぐに声明を出すべきだ。あいつはこれから世界を変える。リチャードさん、あいつは完璧だ。あの才能は神様からの贈り物です。もうエイブラハムズ家の問題じゃない。あんな奴らに才能のあるアスリートを汚されるなんて我慢がならない」

ドンは思わず大きな声をあげたが、リチャードは検査データから目を離さなかった。ドンはまだ何か言いたそうだが黙って部屋の中を歩き回った。

スタジアムのスタンド席には父エリックの姿があった。母のデイジーと恋人のジルはレースの興奮に飲まれ目を丸くしている。ドーピング疑惑はオリンピック委員会によって何度も否定されている。問題は遺伝子改変の噂だ。ネットでは**聞くに耐えない噂が渦巻**いていた。遺伝子改変はドーピングよりもはるかに深刻な問題だ。マスメディアも「もし噂が本当ならば」とカッコ付きで取り上げるようになっていく。リベラル派は人権を問題とした。親のエゴに子供を巻き込むのは児童虐待にあたるのではないか？ スポーツは金持ちの自己顕示のためのおもちゃか？ 教会も名指しでの批判こそしないものの、生命倫理においてテクノロジーの介入に反対する公式な声明を出して**た**。事の真偽はどうであれ、英雄に誹謗はつきものだ。

エリックは携帯端末を取り出し電話をするために席を立った。

ここから視点がドンたちのいる部屋に移動した？

まだ読者はマックスの肩の上で壁越しにドンの声を聞いているので、誘導してあげてもよさそう。

マックスの

生殖への？

このあと明示されている問題たちがわりと「当然に噴出しそうな倫理問題」なのでやや違和感かも。この一文をカット or 聞くに耐えない噂の具体例がほしいかも

マックスは自分が作られた存在だと気づいている。幼い頃一緒に育った兄弟たちは日ごと、いつの間にかいなくなった。学校で年の近い子供達との練習が始まると違和感は無視できなくなった。

マックスは

「みんなどうしてこんなに遅いんだ」

もちろん環境には恵まれていた。競技のためには食べ物や運動器具、練習場所に論理講義など不自由なく与えられた。練習メニューや栄養学に関しては世界最高の権威が指導した。特別な待遇だが、それはマックスだけではない。同級生にはグラウンドスラムを三度達成したテニスプレイヤーの息子もいる。世界中から一流選手の子供が集まっていた。貴族の子だって何十人という。経済的な優位性や遺伝的な素質を受け継いでいるのはマックスだけでは無かった。それでもマックスは桁違いだった。幸い陸上は孤独な競技だ。他人を思い煩う必要も無く練習に打ち込めた。自分が何なのか知らされなかったが、体の異常はすぐに気づいた。心拍数と血圧比は重量挙げ選手並。肺活量や筋肉量はアスリートとしての理想を遥かに超えている。練習の成果と言えなくもない。しかしマックスの身体はまだ成熟しているわけではない。不可解な数値も気になった。細胞内におけるミトコンドリアの密度は平均の三十倍。筋組織の細胞密度も高い。調べれば調べるほど自分の体は常軌を逸している。しかし、同時に恐ろしい事実にも気がついた。白血球が減り続けている。一旦鼻血が出るとなかなか止まらない。微熱が続いている。それらの症状は日増しに頻度が増えていくようだった。父と兄からの輸血頻度も増えた。もしドンが数値を知ったら今すぐ入院させられるだろう。身体は完璧に仕上がっているが、内側ではすでに壊れ始めていた。


に与えられたものなど？

トル

深刻さを増す、など？

前述の症状が「~し続けている」ため、
継続でダメージが増し続ける表現のほうがしっくりかも

陽が沈み始めた。海から吹いてくる風がウォームアップされた体を冷やす。スタンドの歓声はうなりをあげ、競技場の物音を全て飲み込む。歴史的な瞬間を目撃しようと世界中から人が押し寄せていた。

トラックのスタートライン。並びの選手は顔が青い。全員がオリンピックの決勝まで勝ち残っている。世界最高のアスリートなのは間違いない。それでも、マックスに勝てないと知っている。野生の動物が自分より強い相手を見誤らないように。三番トラック。マックスの意識に他の選手はいない。考えは自身の体に。蹴り上げるスパイクの爪先を確かめ、

振り上げる腕の筋肉を意識している。イメージした通りに筋肉が動いているか確認する。

顔をあげると百々先には美しく輝く女神が見える。

“オン ユア マーク”

アナウンスが流れ耳鳴りのようなスタジアムの歓声が静まり返った。突然の無音。他の競技をしている選手も驚き振り返る。スターティングブロックに足をかける選手たち。

“ゲット レディ”

ゆっくりと顔をあげる。女神は甘く魅力的に微笑んだ。ゆっくりと鼻から息を吸い頭を下げて全ての考えを体に預ける。

パンツ

と破裂音が鳴る。心には何の考えもない。

各選手が一斉に飛び出した。

「 」を追加？
もしくは一文字さげる？

マックスは

マックスの

マックスは自分に問いかけた、など？
直後の台詞がマックスのものであること
明示できるとよいかも

走り出す前に
「心には何の考えも」なくなってるので重複する？
カットしても

まずは左脚を大きく踏み抜き右手を振り上げる。リラックスして。次は左腕だ。肩の緊張が二の腕に伝わる。そうすれば自然に右膝が上がる。右腕はそのまま後ろに置いてくる。

左の手首は空気の間隙を縫い、右膝を前に突き出す。左足はマックスを押し出し大地は遙か後ろへ。心臓が爆発する。大量の血液が心臓を飛び出し、筋肉が血管を絞り上げ血を全身に押し流す。急速に視界がぼやけた。思考はなくなり、骨の軋みが鼓膜を通さずに伝わってくる。極限まで鍛え上げられた筋肉が骨を締め上げる。血を流し込まれ膨れ上がった筋肉細胞が全身を締め付ける。

女神は碧い眼の色がわかるほど目の前に見える。ゴールまで二十二歩。時間は四秒を過ぎたところだ。

「ふふふ。まだ三秒以上もあるぞ。どうする？ やるか？」

今のままでも世界記録は確実。だが九秒を切るには覚悟が必要だ。もちろんやるに決まっていた。マックスは力を解放した。筋組織が耐えきれずにプツプツと切れる音がする。マックスは体がどうなるか想像するのをやめた。

「俺はこのために生まれてた。今が俺の全てだ」

体が酸素を欲しがり喘いでいる。急激な消費に血中酸素が追いつかない。それとも筋肉が引き裂かれるのが先か。ブツツと太い音が体の中で響いた。負荷のかかった心臓は最後の血を吐き出し縮む。

秒速七・九に達したマックスの体は、前のめりに倒れたままゴールに飛び込み一回転した。そのまま転がり続け、歴史的な瞬間を待ち構えるカメラマンを三人巻き込んで止まった。

「AそれともB」のAが見当たらないかも？

が先か、それとも筋肉～が先か、と対比にするとしっくりきそう。

場内は静まったままだ。スタジアムのカメラがタイムレコードを捉え、巨大なスクリーンに八・九一秒とタイムが映った。スタンドは歓声に包まれた。

終

マックスの死に様見たい〜〜と
冒頭の「世界を変えて死ぬ」で期待していた
読者私は思いました。